

# スキップワイズ・プログラムによる グローバル人材育成

千葉大学 副学長・国際戦略室長 渡邊 誠

WATANABE Makoto

キーワード： グローバル人材育成、大学の国際化、海外留学プログラム

## 1. はじめに

グローバル化が加速する21世紀の経済社会では、高度で豊かな語学力・コミュニケーション能力や異文化体験を身につけ、国際社会の中でリーダーシップを持って積極的に関与・貢献できる日本人の育成や、それを実現し得る「グローバル・キャンパス」づくりが急務・不可欠です。そのような中、千葉大学では、平成23年度（平成24年3月）

に策定した国際化の方針である『「グローバル・キャンパス・千葉大学」－世界を先導する教育・研究を促進する大学をめざし、グローバルな活動を推進する。』をもとに、教育における国際化を実践しています。千葉大学では、この教育における国際化を国際共同教育と呼び、

- ① 多様なプログラムの設置による魅力ある国際共同教育の推進
- ② 国際的な連携による学生のスムーズな派遣・受入
- ③ 国際協定・国際インターンシップ・国際活動の推進

の3つを目標に掲げ実践しています。現在では、多様なプログラムが設置され、魅力ある国際共同教育の推進がなされており、本稿のタイトルでもあるスキップワイズ・プログラムは、これらの礎となるプログラムであります。

## 2. スキップワイズ・プログラムとグローバル人材育成

千葉大学では、平成24年度よりスキップワイズ・プログラムを実施することで、グローバル人材育成推進におけるさらなる飛躍をめざしています。このスキップワイズ・プログラムは、文部科学省が平成24年度から実施している「グローバル人材育成推進事業タイプA（全学推進型）」に採択されたものです。

スキップワイズ・プログラムでは、「知識準備(Knowledge Reserves)高流動性(High Mobility)型グローバル人材」を育成するため、画期的な教育システムを実施・推進し

グローバル・キャンパス・千葉大学  
世界を先導する教育・研究を促進する大学を目指し、グローバルな活動を推進する

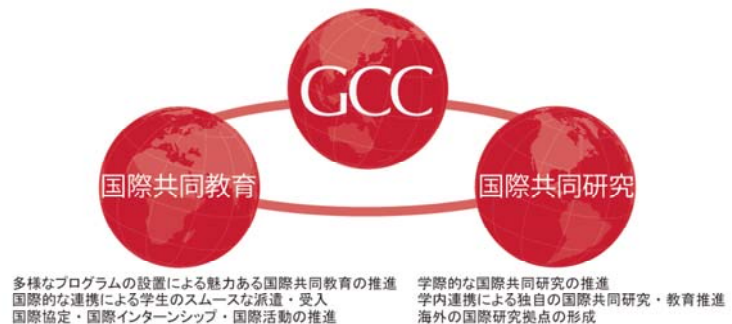


図1 千葉大学の国際戦略

ています。そして、スキップワイズ・プログラムでは、4つのアクションプランを実行しています。スキップワイズとは、この4つのアクションプランそれぞれの頭文字であるS, K, I, PとWISEを組み合わせた造語で、「スキップするように軽快に国際日本人になろう」というメッセージもあります(SKIPWISE = Skip, Knowledge, International support, Professional experience + Wise)。以下で、それぞれのアクションの内容を説明します。

〔アクション1 (Skip & Skip)〕

千葉大学は、国立大学法人で唯一「飛び入学」(高校2年を終えてから大学進学)を実施しています。また、学部、大学院ともに早期卒業や早期修了があり、これらの実績をもとに、多様な年数を設定したプログラムをグローバル人材育成として実施します。これは、4年間日本で勉強しなければいけないという考え方を考えることを学生に提案するものであり、これにより、海外の大学とのアカデミックカレンダーのギャップを解消し、スムーズな留学を実現します。

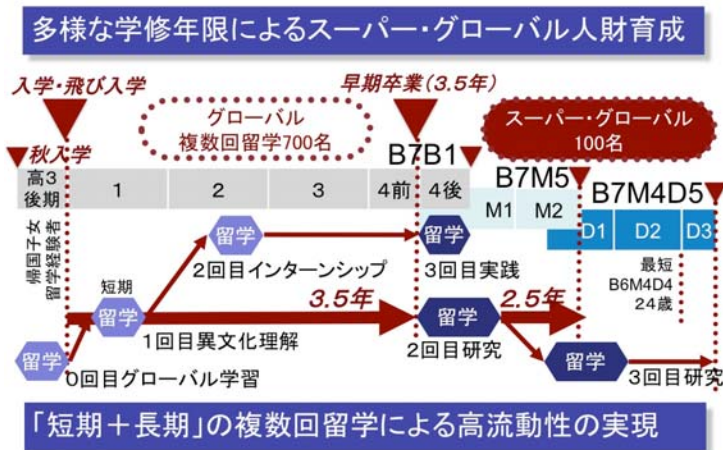


図2 アクション1 SKIP&SKIP

図2の薄い青は短期留学で、濃い青は半年または1年間の留学を示します。例えば、図の一番左のように、半年間の飛び入学後にすぐに留学し海外研修をします。これは、帰国子女など、すでに語学力が確保された学生が対象です。図の中ほどにある太い矢印は、工学部ですでに開始している、学部3.5年で早期卒業、修士2.5年のうち1年を留学するプログラムで、セメスター数でB7M5と呼んでいます。これを全学に展開する予定です。文系では、矢印上段のように、学部で卒業する学生が多いため、7セメスターで卒業研究を終え、半年間留学するB7B1を実施します。この2つは、学生の一番の不安材料である、就職試験の前か後に留学するため、就職に不利にはなりません。博士課程まで進学する学生には、矢印右下のように、長期を2回で2年間留学するプログラムも準備します。いずれもプログラムのポイントは、入学後に海外大学の秋の新学期に合わせた留学プログラムを組み、時間の無駄を排除しているところです。

このように時間を貯金し、留学で利用する学生を「スーパー・グローバル人材」と呼び、グローバル化の旗振り役としてのモデル人材を年間100名輩出する予定です。通常の短期留学のみを行う「グローバル人材」は、全学で700名をめざしますが、この半分近い300名は、修士課程に3年間在籍し留学します。

〔アクション2 (Knowledge Stock)〕

2番目は、学生が自ら考える能動的な学習である、アクティブラーニング型のプログラムの

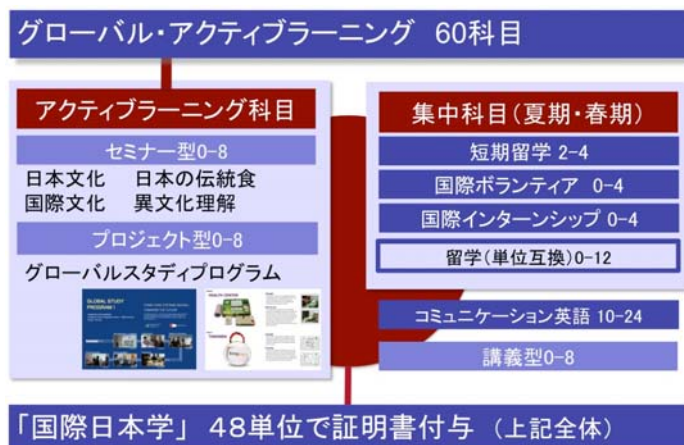


図3 アクション2 Knowledge Stock

積極展開です。本学では、国際教育センターが留学生向けの、日本文化・日本学習を実施していますが、留学を希望する日本人も多く受講しています。これらの授業をベースにアクティブラーニング科目を年間60科目実施します。きちんとした専門知識を持ち、かつ、日本をよく知り、世界をよく知る「国際日本人」を、自ら考える能動的な学習で育成します。そして、これらの授業で48単位以上履修した学生には、副専攻としての「国際日本学」の学位相当の証明書を付与します。全体の1/3は、アクティブラーニングで修得し、2/3は、短期留学、あるいは、夏休みや春休み期間の集中科目で取得できるようにします。4年間での修得をめざせば、各セメスター平均で2科目程度の履修となるため、主専攻の学修を圧迫することはありません。特に、人文系の学生には積極的に「国際日本学」を修得するよう推奨します。年間120名への証明書授与をめざします。この「国際日本学」については、図4のようにウェブで常に最新の情報を提供しています。現時点では、教養教育科目の200科目以上が「国際日本学」に選定されていますが、来年度以降は、専門科目も追加していきます。



図4 国際日本学の情報発信

【アクション3 (International Support)】

3番目は語学プログラムを中心とした留学サポートです。本学では「イングリッシュ・ハウス」を昨年オープンしました。これを拡大し、図のようなイメージの楽しく学べるランゲージアーケードを運営し、映画やコミックを通して語学を獲得します。アーケードでは、千葉大学独自のe-ラーニングなどの既存プログラムと、アクティブラーニング型の英語学習を支援します。さらに5番目の技能として左下のボキャブラリーを追加しました。ボキャブラリーは2つに分類できます。一般ボキャブラリーは英検準1級を目安に、専門は各学部で専門用語の辞書を作成し獲得させます。例えば園芸学部では、園芸学会の発行した園芸用語集を英語化した専門辞書を作りました。このような辞書を各学科で作ります。これは本年度から来年度にかけての重要なテーマです。個々の学生の学習



図5 アクション3 International Support

は、学務専門の職員として雇用するアマヌエンスが管理し、各学生に受講ガイドや成長目標を設定し、徹底した管理を行います。

【アクション4 (Professional Experience)】

4番目が、実践的な社会経験をするプログラムです。これらは、ヴィルスモールというボランティア・インターンシップ・就職支援を行う組織で実施しています。左側の既存のプログラムをベースに、国内と海外の両方で実施しています。国内では、空港やテーマパーク等の国際観光資源におけるインターンシップを、海外では、日本企業の海外ブランチや、千葉大学校友会を通じて、安心して働けるインターンシップ先を確保しています。特に海外での実施では、大学側の危機管理を万全なものにするとともに、学生には、「いざというときは日本語で」という環境のなかで、実践プログラムを実施しています。



図6 アクション4 Professional Experience

また、このスキップワイズ・プログラムを日本語の四字熟語で表すと「飛考探留（ひこうたんりゅう）となります。Skip & Skip = [飛], Knowledge Stock = [考], International Support = [留], Professional Experience = [探]となり、順番は若干異なりますが、「飛考探留」です。留学することでグローバル人材になりつつも、日本を忘れず日本を外から見ることが出来る人材に育ててもらべく日本語のニックネームも作りました。このスキップワイズと飛考探留は一体であり、2つのロゴを作成し、学内外にキャンペーンを実施しています。



図7 スキップワイズと飛考探留のロゴ

3. 大学の国際化としての多様なプログラム

一方、学生ばかりでなく教職員のグローバル化も推進します。教員には、英語教育の専門組織であるロンドン大学のIOEでの研修を実施しています。平成24年度には主に自然科学系の教員を対象に実施し、平成25年度には、10月下旬に人文社会系の教員を対象として、また、3月に自然科学系の教員を対象として実施する予定です。これら以外にも、外国人教員の採用による活性化や英語による国際FD研修等を実施します。職員は、学務専門職員であるアマヌエンスという新職種を設け、組織的に採用しました。アマヌエンスは、留学に関する様々な情報を発信していきます。もちろん、学内のリソースを有効に使うために、海外研修経験者からの配置転換も積極的に実施していきます。

また、構想の実施にあたり一番重要であるのは、教育の質の保証です。スキップワイズ・プログラムで実施される全ての事柄についてグローバル・リソースで管理運営する体制をとります。グローバル・リソースは、国際日本人を育成するための第2の全学共通教養教育のヘッドクォーターです。グローバル・リソースは、「国際日本学」の運営を中心に、ラーケードやヴィルスモールの運営、既存の組織との連携

を行います。これ以外にも、シラバスのバイリンガル化（学習内容や獲得知識の英語による提示）、ナンバリングなども検討を開始しました。また、プログラムをシステムとしてパッケージ化し、日本国内の大学と共有できるように検討しています。

#### 4. スキップワイズと連携している3つのプログラム

本学では、このスキップワイズ・プログラムに先駆けて、多様なプログラムが実施されています。その中の代表的な3つの例について示します。これらのプログラムは、スキップワイズ・プログラムと連携しながら、千葉大学の多様なグローバル人材育成を実践しているものです。

##### 1) 植物環境デザインプログラム (P-SQUARE)

分野融合型プロフェッショナルスクールの創成

日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業〔平成22年度採択〕

本プログラムは、都市環境において、多面的な「植物による環境への貢献」を促すことができる技術に関する国際的な人材―「環境デザインプロフェッショナル」―の育成を目的とし、植物工場や都市緑化に関わる応用研究をマネージできる未来のリーダーの育成を、千葉大学と日本企業、中韓やアジアの大学コンソーシアムとの連携で推進するものです。園芸学研究科と工学研究科との分野融合でグローバル人材を育成しています。



プログラムでは、日本型の実践教育プログラムの中国、韓国、ASEAN諸国等への普及による、日本の技術力の展開や、産学連携によるプログラムの浸透に伴う植物利活用に関わる技術の輸出に寄与する人材育成を目標としています。プログラムでは、ダブルディグリープログラムを推進させ、共同教育による国際的な人材育成と優秀な人材の日本への定着をめざしています。

##### 2) 大陸間デザイン教育プログラム [CODE]

大学の世界展開力強化事業〔平成23年度採択〕

本プログラムは、米国+欧州+日本の3つの全く異なるデザイン教育プログラムを有する大学が協働し、未来の日本を担う創造型産業、特にサービスやコンテンツのデザイン領域において将来活躍が期待できる人材を世界中からリクルートし、世界に通用する



グローバルなデザイナーとして、我が国の将来の産業を創成することが可能な人材を育成するものです。スキップワイズ・プログラムでも採用された、学部3.5年(早期卒業)+修士1年(6か月×2大学留学)+修士1.5年(研究)の6年間のサンドイッチ留学プログラムを新たに設けて実施しています。既に、3年が経過し、10名以上の学生が留学しました。プログラムでは、学部入学時から留学を意識させ、英語による専門教育を2年生より導入することで留学に対するモチベーションを高め、日本のデザインに精通し、世界のデザインを理解している人材育成をめざします。

##### 3) ツイン型学生派遣プログラム [TWINCLE]

大学の世界展開力強化事業〔平成24年度採択〕

本プログラムは、教育学研究科と他研究科の学生がペアを組んでASEAN諸国に赴き、

現地の小中高校で先生となって、日本語・日本文化や千葉大学が世界に誇る先端研究をテーマにした授業・実験を実施する、いわゆる「逆 JET プログラム」です。全学体制による「グローバルジャパンカリキュラム」を新設し、渡航前教育、現地教育体験、事後評価を有機的に組み合わせて国際活動を展開します。これらはスキップワイズ・プログラムとは異なる独自のプログラムを実施しています。



派遣学生は、トライアル(2週間)、ショートコース(1か月)で活動の広がりを追及し、ロングコース(6か月)で深みのある教育研究活動を展開します。もちろん、派遣前の様々なプログラムとして、スキップワイズ・プログラムの「国際日本学」の科目を受講することを推奨しています。

プログラムでは、その成果として、千葉大学を、ASEAN 諸国における初等中等教育・高等教育双方の教育活動の中心的な拠点として形成することをめざします。育成する人材像としては、グローバルマインドを持った教員の養成、グローバルな視点で指導ができるプロフェッショナル人材の育成、さらには、ASEAN での教育活動を通じて、日本ファンの獲得、日本との交流拡大をめざします。

## 5. まとめ

千葉大学のグローバル人材育成はまだ始まったばかりです。様々なプログラムが同時並行で実施されており、今後期待されます。5年後の未来には、年間20万人に近いグローバル人材が必要とも言われています。これは、大卒の25%に相当します。このような時代に備え、全学の半分以上がグローバル人材になり得るよう、スキップワイズ・プログラムをはじめとした、多様なプログラムを実施し、5年後には700名にのぼる海外留学をめざし、国内外の大学と連携していきます。20年後の未来には、全学生がグローバル人材の素養をもち、全学の半分以上が海外に留学する大学をめざします。